

ロータリーを  
実践し



みんなに  
豊かな人生を

2013~2014年度 国際ロータリーのテーマ  
ロン D.バートン

RI第2510地区 留萌ロータリークラブ

# 会報

2013 ▶ 2014  
WEEKLY REPORT

留萌ロータリークラブ 会長目標 **集中と調和**

会長／中出敏彦 幹事／大嶋孝広

## プログラム

●本日  
「我が生い立ち Part 2」  
渡部 英次 会員

会員誕生日  
2月20日 工藤 隆

●次週予定  
移動例会「創立記念夜間例会」

配偶者誕生日  
2月19日 工藤 捷  
2月23日 遠藤 正子

No. 2594  
第31回 2月19日

出席報告

前例会

会員総数……………41名  
出免会員……………8名  
出免出席……………5名  
基準会員出席……………22名  
出席率……………72.97%

前々会

第28回 1月29日  
欠席会員……………12名  
内メイクアップ……………6名  
修正出席率……………86.48%

例会／毎週水曜 12:15~13:15 留萌産業会館2F

## 幹事報告……………

- 羽幌RCより会報No.1667~1670号及び2月例会案内を受領。
- 2014~2015年度ロータリー手帳の案内が届いております。価格は1冊648円(税込み)です。お申し込みされる方は幹事まで。

## 3分間情報……………

会員研修委員会 阿部委員長

本日は職業奉仕と社会奉仕に関わることをお話させていただきます。

職業奉仕は「最もよく奉仕する者、最も多く報われる」という言葉によく表れていると言えます。職業奉仕の理念を提唱したアーサー・フレデリック・シェルドンという方の言葉を読

むと色々なことに気づかされます。

職業人が自ら事業の継続的な発展を願うことは当たり前のことです。企業経営によって利益を得ることも当然のことで、決して卑しいことではありません。しかし合法的でない方法や他人から批判を浴びるような方法で一時的に大きな利益をあげたとしても、それは長続きするものではありません。シェルドンは自ら事業を継続的に発展させる為の企業経営の理念と実践方法を考え出して、それをロータリーの職業奉仕理念として提唱しました。

職業奉仕というのは科学的で合理的な企業経営方法のことであり、シェルドンの職業奉仕の理念に則った企業経営をすれば継続的に利益が得られることを証明する実践理論であります。その意味でいうと、他の奉仕活動と違い、職業奉仕の受益者はロータリアン自身ということに

なることに気づかされます。と言う事で、ロータリークラブの特徴であるシェルドンの職業奉仕の理念について、しばらく勉強してみようと思います。気付いた事があれば、この場で順次お話をしていこうと思います。

|     |          |
|-----|----------|
| 前 回 | 580,600円 |
| 今 回 | 6,000円   |
| 累 計 | 586,600円 |

## 【ミニ情報】

1964年の東京オリンピックでは、東京のロータリークラブで社会奉仕としてオリンピックに参加することが企画され、国立競技場に聖火台を寄贈し、期間中には都内で「友情の部屋」という通訳常駐の案内センターを開設しました。札幌オリンピックの時も、北海道の2地区が全国に呼びかけ、聖火台を寄贈しました。

2020年に向けて建設予定の新国立競技場には新しい聖火台が作られ、古いものは撤廃する予定でしたが、1964年の聖火台製作にあたった鋳物職人鈴木萬之介さん、文吾さん親子の作業場がある川口市が保存を求める要望書を提出したり、東日本大震災の被災地・宮城県石巻市が聖火台誘致に動いたり、50年経っても褪せない価値をうたえる動きを受けて、文部科学省は昨年未だに改修後の「新国立競技場」で保存することを決定しました。

1964年東京オリンピックの聖火台は戦後復興の象徴として世界に映し出され、その壮絶な製作過程も合わせて非常に印象深いものとなっております。寄贈の件を知っている人は多いと思いますが、こんなにも素晴らしい社会奉仕が実現されていることを紹介したく思い、ミニ情報と致しました。

## ニコニコBOX .....

- ・オロロンスノーパラダイス無事終了致しました。クラブの協力ありがとうございました。  
燕会員
- ・高田親睦委員長にはいつも大変お世話になっております。  
大嶋会員
- ・2月5日例会の出席報告に誤りがありました。訂正してお詫び申し上げます。  
齋藤会員

## プログラム .....

「情報集会発表」

テーマ

1. 特別会計と一般会計の一元管理について
2. クラブに入会して良かったこと
3. 現状のクラブの問題点

《第1班》 発表：堀サブリーダー

西谷(英)リーダーの元、メンバーは平井、中川、関野、対馬(欠席)、遠藤、西谷(恭)、佐々木、燕、梁川各会員

[第1テーマ]

- ・会員減少に伴い本来は別管理の方がいいが、しっかりした管理下の元であれば一元管理も良いのではないか。
- ・特別会計と一般会計でお金の貸し借りが出来るようにした方が良いのではないか。お金の色がついている訳ではないので、不正防止や明朗会計の為には、やはり今のままの特別会計と一般会計で管理をした方が良い。しかし年度開始直後は会費の納入の遅れもあり、会の運営が厳しいのも事実であるので、理事会にてお金を移動することを承認して臨機応変に出来るようにするのが良い。
- ・時の会計のやりやすいようにしても良いのではないか。

[第2テーマ]

- ・入会することによって人脈が非常に増え、世代を超えた付き合いが出来た。異業種間の交流もでき、自分自身がロータリーに育てられたのでクラブに感謝したい。この気持ちが奉仕活動につながるのだと思う。また、人に勧める事が出来るのだと思う。
- ・ロータリーは何か事業をする時、会員皆が協力してくれる。こんな素晴らしい事はない。
- ・奉仕活動に興味が無かったが、クラブに入会した事により、奉仕活動について考えるよう

になった。

## 〔第3テーマ〕

- 委員会活動をしっかりした方が良い。これは最近の委員会活動について、一部の人が動いていない事もあるような気がする。委員長だけでなく、委員会メンバーでの活動計画をしっかり立てて、皆で取り組めるようにしていった方が良い。
- 新会員に対してしっかりと指導をした方が良い。そうしなければ、その会員が中堅になって指導する事が出来ずに可哀想である。またクラブの質が落ちてしまう恐れがある。また会を維持していく為には多少の厳しさも必要である。昔の厳しい時の方がステイタスが高かった。
- 個人的に参加するクラブであるが、個々が成長していかなければだめ。そうしないとクラブが前に進んでいかない。
- 厳しい意見として、例会には一人ひとりが、しっかりと望まないにだらしくなってしまうのではないかな。

## 《第2班》 鶴城サブリーダー

第2班は今月の6日富丸にて、3班の開催日に都合のつかなかった高田会員のご参加をいただき、8名にて開催いたしました。

まず最初のテーマは、特別会計と一般会計の一元化ですが、様々な意見が出ましたのでまとめた形で発表をさせていただきます。

「会員数が多かった頃には、今日のように年度当初の運営資金などに頭を抱えることもなく、BOXなどで得た収入においては別会計として管理していたが、現状においては、特別会計も含めた運営が不可欠となっている以上、何れかの時期において一元化することが望ましいのではないだろうか。また、第1グループにおいては、BOXの収入などを別会計にしているクラブは留萌クラブのみという事を考えても、一元化への移行は必然と考えることもできる。但し、BOX収入などを一般会計に繰り入れた場合に生じる問題点については、考量を重ね明文化などの必要もあると考えられる」と、まとめさせて

いただきました。

続きまして、クラブに入会して良かった事ですすが、様々な意見を頂戴いたしましたので、紹介させていただきます。「異業種間での交流により、学ぶことが多い」、「奉仕する事により自分が磨かれているように感じる」、「ロータリーを通じて、誰がどの様な考え方を持っているのか知る事が出来て、有意義である」などの意見から、「楽しい」、「仲間がいて嬉しい」、「あずましい」、「居心地が良い」、「利害関係が無いので良い」、などの意見まで様々と出ました。まとめるなら、「仕事仲間では得る事の出来ない人間関係をクラブで得られ、クラブの活動を通して人間として向上する事が出来た」と、させていただきます。

続いて、現状のクラブの問題点ですが、先ほどのテーマと打って変わって真剣な意見が多く出ました。1. 留萌クラブはとても良いクラブと言えるが、他クラブに比べるとゲストなどに対しておもてなしが不十分ではないだろうか。

また、会員の名称をちゃん付けや愛称で呼ぶ場合は、ゲストの前では慎むなど、他の場面においても、品位のある呼び方を心掛ける必要があるのではないかな。2. 何と云っても会員増強の対策が必要である。常に増強の意識を持ち、積極的に入会を働きかけないかぎり、会員増強には結びつかない。3. 以前は情報集会在前期、後期と合わせて2回開催されており、またクラブフォーラムも開催されるなど、会員同士で議論する場が多かった。最近は会員間で議論する場が少なくなった。会員間での議論はとても大切であり、今後においてはもっと増やすべきではないだろうか。以上、クラブの問題点については3点にまとめて発表させていただきましたが、終止熱を帯びた意見が飛び交い、皆さんのクラブに対する率直な思いが聞けた情報集会となりました。

## 《第3班》 福士サブリーダー

1月29日富丸にて午後6時30分より開催。出席者は、森(幹)、福士、佐藤、行徳、森(俊)各会員。

## 第30回 2月12日(水) 天候/雪

### ①特別会計と一般会計の一元管理について

メリット：会計処理が簡単になる。一元管理した方が、安定的な財源の確保が出来ると思う。

デメリット：社会奉仕活動の財源がニコニコBOXから出ているという意識がなくなってしまう。ロータリーの奉仕の精神が忘れられるのではないかな。

### ②クラブに入会して良かったこと。

○良かったこと

- 異業種との交流が出来る。
- ロータリークラブ活動の原点である奉仕活動にふれることにより、仕事の仕方を見直すことができました。

○悪かったこと

- ロータリークラブで活動するという事は、色々な人にお世話になることであり、育てていただくことであり、少しでも恩返しをしたいと思い活動すると、またお世話になると言う事である。ゆえに、やめられなくなるということである。

### ③現状クラブの問題点

- 出席率が上がらない。入会の履歴が短い会員の出席率を上げる方法が必要。
- 情報集を増やす事により、新会員がロータリーのことをよくわかる機会を作る必要があるのではないかな。先輩会員の経験談やロータリーの解釈、雰囲気といったものが、ロータリー観の醸成やクラブの同一性、連帯感にもつながる。
- 他のクラブの見学ツアーを企画して、井の中の蛙にならない意識が必要ではないかな。
- 会長の卓話があっても良いのではないかな。
- 委員会報告が少ない。
- 会員間の礼儀がなおざりにされていないかな。「ロータリー会員は対等であり、分け隔てはない」と言われているが、ある程度の常識や長幼の序を弁えぬ言動には一般社会人として注意が必要なことと言うまでもない事である。

### 《第4班》 阿部サブリーダー

二ノ宮リーダーのもと、1月29日6時よりワ

ンポイントにて開催されました。参加メンバーは、二ノ宮、阿部、田中、辻本、渡邊の5名でした。

### ①特別会計と一般会計の一元管理について

• まずは細則にある文言について、細則ではクラブ運営に関する予算と慈善奉仕活動運営に関する予算で、「予算は2つの部分に分けられるものとする。」とあり、その真意がわかりづらい。

• 繰り越した積立金を活用することで、期首の資金不足はある程度解消されるのではないだろうか。

• 一般会計で会の運営、特別会計で奉仕活動、という元々ある基本的な考え方を間違えなければ、運用の形は変えても問題ないと思う。

• 会長の意見に任せ、内情にあった形でやるのが一番。

という意見がありました。

### ②ロータリークラブに入会して良かったこと。

• 知らない人と知り合いになれる。

• 入っていなければおそらく話すことのない人と話すことが出来ていること。

• 週1回の例会が、気持ちの休まる場所、息がつける時間になっていること。

• 四つのテストを言葉に出して、意識する事が出来ているのは、元々その意識がなかった自分としては大きいこと。

• 職業分類で色々な職業、立場の人と意見交換することが刺激になる。

### ③現状のクラブの問題点

• お客様が来ている時でもけじめ無くザワザワしている印象がある。先輩やSAAが気付いた時注意する等の対策が必要。

• 基本的なマナーがない。ビジターやゲストに対するおもてなしの気持ちが足りない。

• 例会のビデオ撮影中、マイクが私語を拾う場合がある。

• 例会の雰囲気を知る為、全員が第1グループ以外へのメイクアップへ行って下さいという意見も出されました。